

# ご意見募集！

広報誌をより良くしていくためにみなさんからのご意見を募集しています。ご意見をお送りいただいた方の中から抽選で3名様に日南町の特産品をプレゼントいたします。

送り先：〒689-5292 日南町役場 企画課 広報担当

手紙、はがきに①住所②お名前③電話番号④ご意見・ご感想をご記入の上、企画課まで郵送またはお持ち込みください。みなさんからのご意見お待ちしております！（※メールでは受けつけておりませんのでご注意ください。）

今月の  
表紙

## 「祭りを守る それが若いもんのつとめ」

12月号は、多里地域に古くから伝わる伝統芸能「かしら打ち」についてご紹介します。

### 多里のかしら打ち

多里地域に伝わる「かしら打ち」は、毎年11月に行われる多里神社の秋祭りの日に、その年の五穀豊穡に感謝し、その喜びを氏神様に奉納するために行われてきた。

その歴史は長く、明治時代以前から多里地域で行われていたという記録が残っている。広島県北部を中心として中国地方の山間部で同様の行事が行われており、多里のかしら打ちも広島県の備後地方から伝わってきたものと推測される。「かしら」とは大きな太鼓のことをいい、それを叩くのが「かしら打ち」である。

もともとは新屋地区で行われていた行事だったが、若者の減少によって新屋地区だけの取り組みが困難になり、昭和40年頃から、多里地域全体の青年団で行うようになった。その後平成15年に「多里かしらうち保存会」が発足し、現在に至る。

平成17年には福栄地域に伝わるかしら打ちとともに、「日南のかしら打ち」として鳥取県無形民俗文化財に指定された。



多里のかしら打ちでは、花笠をかぶった4人が、地面に横にすえた大太鼓を差し向かいに囲んで打ちます。3つの太鼓にそれぞれ4人の計12人と、これに天狗面の露払いと、茶利（仮面の道化役）がついて出ます。

メンバーは、高校2年生から50代までと幅広く、この日のために帰省した人や、移住してすっかり保存会のメンバーとして馴染んだ人も。みなさんそれぞれに「多里の祭りを守っていく」という心意気を感じられます。

今年の秋祭りは、11月13日。当日は朝から多里地区をねり歩き、その道すがら家々を訪れます。訪問された家は、その後一年間、魔よけと益々の繁栄があるとわれ、地域で親しまれています。

この日は小雨の降る中でしたが、保存会のみなさんが近くにやってくると、それを待ちわびていた近所の人々が集まり、茶利に祝儀を渡します。

「待っていてくれる人がいるから、これからもかしら打ちを途絶えさせたくない」。保存会のみなさんはそう力強く話していました。

